

## 人権教育関係資料の紹介

昭和 23 年 12 月 10 日、国連で「世界人権宣言」が採択されました。これを記念して我が国では、毎年 12 月 4 日からこの「人権デー」までの一週間を「人権週間」として定めています。学校でも、さまざまな取り組みが実施されることと思います。

情報コーナーの蔵書から、最近の参加型学習等ですぐに使える本、人権関係の新着図書をご紹介します。

### [ 参加型学習ですぐに使える本 ]

『人と人とを結び、思いやる心を育てる授業』	安藤 昇	編
『いのちを考える授業プラン48』	今野喜清	編
『多様性トレーニングガイド』	森田ゆり	編
『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』	菱田準子	編

### [ 人権関係の新着図書 ]

『知っていますか？同和教育一問一答 第2版』	森 実	編
『知っていますか？人権教育一問一答』	森 実	編
『知っていますか？子どもの虐待一問一答』	田上時子	編
『部落史に学ぶ～新たな見方考え方にたった学習の展開』	外川正明	編
『朝鮮をどう教えるか』	「朝鮮をどう教えるか」編集委員会	編
『太鼓～つくって知ろう！かわ・皮・革』	三宅都子	編
『お姫様とジェンダー』	若桑みどり	編
『人権のための教育 新版』	ラルフ・ペットマン	編
『幼児期からの人権教育 新版』	ラルフ・ペットマン	編
『被抑圧者の教育学』	パウロ・フレイレ	編
『勇気がでてくる人権学習～傍観から行動へ』	白井俊一	編
『勇気がでてくる人権学習2～差別・被差別・傍観のトライアングル』	白井俊一	編
『女性差別をなくすために』	小寺初世子	編
『権利と責任』	中川喜代子	編
『スクール・セクハラ防止マニュアル』	田中早苗	編
『多文化共生の学校づくり』	横浜市立いちよう小学校	編

情報コーナーには、このほかにも人権・同和教育関係の本が多数あります。また4階のフィルムライブラリーにはビデオや16ミリ映画がありますので、是非ご利用ください。

### 開館時間のご案内

平日：午前9時から午後9時  
ただし、教育相談は、  
午後5時15分までとします。  
なお、次の日は取り扱いいたしません。  
【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行	尼崎市立教育総合センター 〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 06-6423-3400
発行者	倉橋 忠
題字	教育委員長 岡本元興

## 教育総合センター だより

NO. 98  
平成17.12.1

### 温故知新

尼崎市立 武庫 中学校

校長 日下 峯和



先日の紀宮様の結婚式を通して、本来日本人の持っている思いやりの心や、親子の情愛、質素な中にも気品に満ちた美しさ、清楚な感情、等多くのことを学んだように思う。今の利益のみを追求し、物欲に走る殺伐とした世の中で、日本人の良さを忘れ新しいものにのみ価値を見いだそうとする風潮に何か警鐘を与えてもらったように思う。改革改革と騒がれる中であって、何か古き良き時代の良さが失われていないか改めて問う必要を感じた。

私が教師になるきっかけは、高校時代の歴史の授業にあるように思う。確か私はシルクロードの文化という課題で発表したように記憶している。特に好評を博したというわけではないが、自分なりに図書館で本を探し、岩波の薄っぺらな本であったが、それを読んで発表し、達成感・充実感を感じたことが、勉強への興味と教師という仕事に魅力を感じた思い出がある。もう一つ、こういう教師にはなりたくないと思った経験と担任の先生に対する尊敬の念を抱いたことがある。中学時代卓球をしたくて、友達と講堂に入り込み卓球をしていて見つかり、こっぴどく怒られたことがある。自分としてはずいぶん反省しているにもかかわらず、かっこいい体育の先生に、非常な屈辱感を味わわされた記憶がある。ただその時、他の生徒が更に追い打ちをかけるように担任に呼ばれ説教されたにもかかわらず、私の担任は簡単に「もうこんな事はするなよ」と一言で私を帰してくれた時、担任から、自分が信頼されているうれしさを感じたことを鮮明に覚えている。今、思えば生徒をひとりの人として尊重して叱るか、生徒として見下ろした中で叱るかの違いではないかとも思う。もう一つは、高校の美術の作品を持っていった時、あからさまその作品をけなされたことも私の長い教師生活の教訓として残っている。私はそれ以来

絵を描くことが嫌いになったのである。教師の気ない言動が子どもの心に大きな影響を与えていることを心せねばならない。

今学校に求められているものは嘗て、子ども達が集団の一員として、主体的に活動していた時代の教育を見直すことではないかと考える。学級会を開いて、掃除をいつもなまける子、クラスでいつもいじわるをする子に対してみんなで意見を言い交わしながら学級がまとまっていった時代、水泳大会を先生がいなくても教室でテレビを見ながらみんなでまとまって応援した時代、自習の時教科委員が前に出てきちんと自習できた時代、生徒に我がクラス、我が学年、我が学校という自覚がみんなに迷惑をかけてはならないという自律・自製の心が育っていた時代、我が家という意識も希薄にはなっていないだろうか、「親に迷惑がかかる」このことが忘れ去られようとしている。

塚口中の校長の時、先輩諸氏から、かつての塚口中は、生徒会もクラブも学級も授業も生徒達自身で作り出した時代があったとよく聞かされ、「もうあんな時代は来ないのかなあ」と懐かしむ様子に「今の子ども達にもそれだけの力量はありますよ」と話したことがある。教師主導型ではなく生徒の主体性を信じて、そして力量を信じて、理性を信じて、教育することも大切ではないかと良く思うことがある。新しい時代に新しい人材も必要かもしれないが、人間として基本的に大切な素養、そして日本人の良さを改めて見直すことも必要ではないかとも思う。人間としての基礎がしっかりしていればいろいろな時代の変化にも対応できるのではないのでしょうか。

今度、啓明中で、学級展示に教室いっぱいにプラネタリウムを作った1年3組の同窓会をやろうという話がある。みんなの顔を見るのが楽しみである。

## 人権教育研修を受講して

8月26日に仲島正敏先生を講師として人権教育研修が開催されました。我校では、それを校内の人権研修として全校あげて参加しました。今、子ども達を取り巻く社会全体は様々な問題を抱え、驚くような少年犯罪も起こっています。人の痛みを感じられない、そのような世相の中、学校教育でできることは何なのかを考えると、人権教育の大切さを改めて感じます。

この日、『あーよかったな、あなたがいて～学級づくりと自尊感情～』というテーマで、お話がありました。「人は何のために生きるのか、それは笑うためである」開口一番、この言葉で始まった先生のお話は、パワフルで明るく勇気が湧いてくるものでした。人権教育の視点に立つとは「クラスの中で一番難しい(弱い)立場の子が大切にされているのか」ということ、それはとりもなおさず、学級作りがそのまま人権教育であるということになります。以下、先生のお話で心に残った点を挙げさせていただきます。

### 研究授業のすすめ

子どものことも、教材のことも、指導のことも、わかっているようで実はわかっていない。誰の顔を浮かべながら授業を考えているのか。あの子この子のために授業するとびっくりするほど他の子のことも見えてくるのだという仲島先生。かつての実践から、子どもは授業で必ず変わるといことが伝わりました。

### 書くことのすすめ

楽しく書こう学年通信学級通信「ユーモアと子どもの姿が入っているといいな」ということで見本をみせてもらいました。『100号出せた自分が好

き』というタイトルにほのぼのとした気持ちが湧いてきました。文字や言葉によるフィードバックは子どもに自信を持たせられる。いい言葉や感動の出来事が残せるようにと思いました。

### 家庭訪問のすすめ

「温かい家庭からは温かい心が生まれる。」その温かさのタネを持っていくのが五分間家庭訪問。「教育は、きょう(今日)いく(行く)」と速さが大切で、うれしい知らせは親の心を温かくし子どもを変え、そこから自尊感情が育つというお話でした。早速子ども達の座席表を作り、どんどん書いていこうと、その時心に決めました。

2学期になり、俳句の勉強をしました。リズムが楽しく子ども達は、次々に覚えた八首の俳句を言っていきます。最後になったA君。七首言えたところでつまってしまい、後、一首ができません。涙を浮かべて席に戻ったA君に、隣のSさんが「初しぐれ... はい」と言い、いつしか班の子も語りかけ、遂に10分後、A君が言えた時、クラス全員がワァーと拍手をおくりました。本当にうれしく思い出の授業になりました。

日々の実践はすぐに結果が出ないことも多いですが、今回人権教育研修で受けたことを大切にしたいと思っています。

(尼崎市立杭瀬小学校 教諭 森本 秀子)



## 今なぜ、多文化共生教育か？

### 激変した日本の国際化

10数年前、在日外国人といえば、その多くを在日コリアンが占めていましたが、今では、在日コリアン以外の多くの外国人の急増により、全国的には70人に1人、兵庫県では60人に1人、尼崎市では35人に1人の割合で外国人が生活しています。

平成2年のいわゆる入管法(出入国管理及び難民認定法)の改正により、単純労働を認めるビザの発給が可能となったことによって、たくさんのお客が来日してきました。それに伴って、中国帰国者の呼び寄せ家族や、日本人男性と結婚した多くのアジア諸国の女性たちも急増してきました。

そうしたことを背景として、当然日本の学校に全く馴染みのない、日本以外の国に文化的ルーツをもつ、いわゆるニューカマーの子ども達が多く編入学してきました。

その結果、多様な文化を受け入れることが苦手な日本社会において、日常生活や医療制度、就労及び教育等において、さまざまな困難さや課題が浮き彫りになってきました。

とりわけ学校においては、日本語の取得並びに母語獲得や学力の取り組み、学級、学校内での人間関係作り、保護者への対応等々、たくさんのお客が浮き彫りになってきました。

### 在日外国人児童生徒の現状

現在尼崎市には、500有余名の在日外国人の児童生徒が生活しており、その約80%は在日コリアン児童生徒であります。その内のほとんどの子ども達が通称名(日本名)を名のっており、本名を名の子どもは約一割と極めて少ないのが現状であります。このことは、今なお本名を名のり、出自を明らかにすることが難しい社会であることに他なりません。

また本市においても近年、中国人やブラジル人、ベトナム人などの在日外国人児童生徒数は増加傾向にあり、それに伴って日本語理解が不十分なことや文化、生活習慣の違いなど、相互の文化的背景の理解不足により、学校や地域の中で暮らしにくい状況が見られたりする場合もあります。

### 学校や地域の中で

日本で生まれ、在留期間が長期間にわたる外国人の子どもは、地域社会になじみ、学校での生活言語や学習言語も取得できているのですが、ニューカマー(新渡日)の子ども達は、滞在日数の経過とともに生活言語が取得できても、学習言語の理解に時間を要し、一斉授業では対応しにくいといった状況があります。その結果、十分な学力が獲得できず、高校進学を諦めてしまうというケースも見受けられます。

また地域社会においても、それまでの在日外国人とは在留形態が異なるため、文化や習慣の違い、言語の問題による意思疎通の難しさによってコミュニティが形成しにくく、相互理解や相互支援が十分になされていないため、人権に関わる新たな問題も起こりつつあります。

### 現在の取り組み

園田北小学校において、平成元年に「インドシナ難民子女教育受入推進協力校」に指定されて以来、「ユイ教室」等において日本語指導や母語指導に取り組み、帰国・外国人児童生徒への支援体制づくりに努めています。

また明城小学校では、平成10年～平成13年に文部省から「帰国子女教育受入推進地域」に、平成15年度からは文部科学省「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」の指定を受け、ともにセンター校として「なかよし教室」を開設しました。

「なかよし教室」では、放課後や夏休みに日本語指導や母語指導、生活適応指導を行うと共に、「七夕、クリスマス、なかよし」等の交流会を実施して、日本文化やそれぞれの国の文化芸術にふれあう活動や、世界各国の料理教室などを体験し、ふれあうことを通じた仲間づくりや異文化理解に大きな成果をあげています。

その他、子ども多文化共生サポーター設置事業(県)や、日本語指導協力員派遣事業(市)により、日本語理解が不十分な外国人児童生徒に対し、コミュニケーションの円滑化を促すと共に、生活適応や心のケアを図ったりしています。

### 終わりに

多文化共生教育とは、国籍やルーツの異なる子ども達が、互いの多様なあり方を尊重し、対等な関係を築こうとすると共に、お互いを通して影響し合えることだと思えます。

それは、諸外国の文化を知ったり、習慣や生活を学んだりすることだけではなく、そうした多様な暮らしぶりをしていく人たちも、自分達と同じようなことに苦しみ、同じようなことに喜んでいるといったことを、交流を通して知ろうとすることではないかと考えます。

その前提として、編入学してきた新渡日の子ども達が、できるだけ早い時期に受け入れられ、そのことで少しでも不安を取り除くことができるような、心の居場所づくりを図ると共に、参加体験型交流活動等を通じた、子ども達の異文化間コミュニケーション能力を育てることが必要不可欠であります。そしてそれは、必ずや日本の子ども達の、異なる文化を理解、尊重し、多様な人々と共に心豊かに生きていく態度の育成につながっていくものと確信しています。(人権教育担当係長 清 昌司)

# 多文化共生教育に関する参考図書

## 国際理解教育と人権

大阪市小学校国際理解教育研究会編

(本研究会が「人権の尊重」という理念を大切に、且つ「豊かな人間関係」の涵養を基底にして取り組まれた多くの実践事例から、「大阪らしい国際理解教育」という視座で理論的に整理したものを、参加体験型学習形態・方法を取り入れて紹介した実践事例集です。)

## 多様性トレーニングガイド

森田ゆり 著

( - 本文はじめにより - …自分とは違う人を理解しようとする中で、人は相手よりむしろ自分自身を一層深く理解するという予期しなかった副産物を受け取ります。他の文化を知ることは自分の文化を知ることに他なりません。他者の価値観を知ることは自分の価値観を知ることです。その意味で多様性トレーニングとは、自分をより深く知る学びの場であるといえるでしょう。…気づき・知識・スキルをもたらすための多種多様なアクティビティー 参加型ワーク、実習、練習 を紹介した実践事例集です。)

## 多文化共生の教育とまちづくり

財団法人アジア・太平洋人権情報センター編

(日本における外国人の子どもや、外国にルーツを持つ子どもたちの教育の現状、具体的な取り組み、改革すべき問題などに焦点を絞って、学校や地域の教育現場において母語獲得の取り組みをはじめとする多文化教育の実践に携わっている方、自治体の立場からそれを支えるまちづくりに関わっている方、また法律家や研究者など、いずれも多文化共生を目指して第一線で活躍されている方々の執筆によって、具体的な示唆に富んだ先駆的な取り組み事例の数々が紹介されています。)

## 届け！私の思い - 「ニューカマー」の子どもたちの声 -

全関西在日外国人教育ネットワーク

( - 本文、渡日の子どもたちの声を聞いてより - …渡日の子どもたちは、多くの場合、自分の意志とは無関係に日本で生きていくことになったのではないのでしょうか。そして彼・彼女らの前に立ちはだかっている試練はあまりにも大き過ぎると思います。その試練を越えていかなければならない彼・彼女らに対し、日本の学校や地域社会、そして私たち一人ひとりが精一杯応援していくのは当然のことではないのでしょうか。…第1回から第5回の「ちがうことこそすばらしい！子ども作文コンクール」の入賞作品をまとめたものです。)

## アジアの子ども遊び2 - 総合的な学習・国際理解教育のための手引き -

兵庫県在日外国人教育研究協議会編

(総合的な学習や多文化共生教育の中で活用できるよう、韓国・朝鮮、中国をはじめとした、子ども達に教えやすいアジア諸国の遊びを、各種のおもちゃとともに多数紹介しています。)